

編集後記

『国際経営論集』第37号をお届けします。本号は、2009年3月末をもって定年退職される本学部教授三村真人先生ならびに復本一郎先生の退職記念号として編集しております。退職される2名の先生方からの特別寄稿をふくめて論文11編、および研究ノート・資料5編、あわせて16編の論稿を掲載することができました。経営学部長の冒頭讃辞をはじめ、原稿をお寄せいただいた先生方には感謝とお礼を申し上げます。

この編集後記でもたびたび触れたことですが、情報の発信・伝達・交換の手段は、紙媒体から電子媒体へと急速に移行しつつあります。情報のデジタル化は、その利便性のゆえにますます拡大・加速すると思われます。伝来の紙媒体による学術紀要の編集にかかわるものとして、このような情報のデジタル化の進展に充分対応してきたのかと自問すると、内心忸怩たる思いがします。

神奈川大学でも2009年度より学術機関リポジトリが開始され、学内紀要をふくめた大学研究機関の学術論文が本格的に電子情報化されます。しかし、紙媒体の情報がそのままデジタル化されれば「情報化」対応になる、とは思われません。従来の慣行・手順を踏襲して情報をデジタル化してみても、検索・共有・利用にすぐれた情報とはならないと思われるからです。デジタル対応とするには、論文の書式から見直す必要があります。ちなみに、本論集第35号の編集後記で、論文要旨やキーワードを添付することをお勧めしたのは、そのような意図からでした。残念ながら、編集委員の非力から、情報のデジタル化にふさわしい論文書式の提案まではいたってはいません。編集委員会の今後の課題の一つと考えます。

すでにお気づきのように、本号では2008年10月に突然逝去された経営学部准教授太田正孝先生への哀悼の意を表するために、先生との関係の深い方々からの追悼文を掲載しております。太田先生の学部・大学院での研究・教育活動に

ついては経営学部長ならびに経営学研究科委員長からの、また大学管理運営業務については工学研究科委員長からの、そしてその人物像については同僚の経営学部教員からの、寄稿をそれぞれいただきました。記して感謝しますとともに、太田先生のご冥福をお祈りいたします。

2008年度は、経営学部の創設以来長年にわたって尽力された2名の先生が定年退職を迎えられ、また1名が惜しくもその道半ばにして逝かれ、さらにもう1名が同じ学内ながら他学部での活躍を期待されて袂を分かつことになりました。しかし、4月には新しく3名の先生方を経営学部にお迎えすることになっております。私情の披瀝で申し訳ありませんが、好きな言葉を記して、編集後記の末尾とさせていただきます。

年年歳歳 花相似たり
歳歳年年 人同じからず

コノサカズキヲ受ケテクレ
ドウゾナミナミツガシテオクレ
ハナニアラシノタトエモアルゾ
「サヨナラ」ダケガ人生ダ

編集委員会（林 悦子・後藤 伸）

〈執筆者紹介（掲載順）〉

三 村 真 人	経営学部教授
復 本 一 郎	経営学部教授
柳 田 仁	経営学部教授
丹 野 勲	経営学部教授
小 島 大 徳	経営学部准教授
李 貞 和	経営学部非常勤講師
MARIKKAR, Fathima Azmiah	経営学部非常勤講師
千 葉 義 信	経営学部非常勤講師
大 橋 哲	経営学部准教授
廣 田 律 子	経営学部教授
大森美紀彦	経営学部非常勤講師
荒 井 義 則	経営学部非常勤講師
橋 本 直	経営学部非常勤講師

『国際経営論集』 第37号

無断禁転載

2009年3月31日 印刷

2009年3月31日 発行

発 行 神奈川大学経営学部

編 集 『国際経営論集』編集委員会

〒259-1293 神奈川県平塚市土屋2946

電 話 (0463) 59-4111

F A X (0463) 58-9688

制 作 株式会社 興版印刷

〒254-0076 神奈川県平塚市新町7-15

電 話 (0463) 32-1899

F A X (0463) 32-1865